



思いをつなぐ いのちをつなぐ

t s u n a g u

つなぐ

3.11 を忘れない

今、わたしたちにできること



Vol. 21

2018年7月30日発行

つなげよう脱原発の輪

上越の会 会報

発行責任者：植木史将

原発事故から7年が過ぎ、いくつかの帰還困難区域が解除されたと言われる一方、県外への避難者が3万4千人（復興庁調べ2018.3.15 現在）もいます。全国ではつぎつぎと原発が再稼働され、新潟県内において、テレビでは毎日東電柏崎刈羽原発の安全コマーシャルが流されています。また、福島原発被災に関する情報はあまり聞かれなくなったように思います。今、原発災害による被災状況がどのようになっているのでしょうか。〈ツアーご案内より〉

「福島の今」を見に行くツアー

【日時】2018年6月23日（土）～24日（日）

【行程】≪23日≫上越市内出発、Jビレッジ、宝鏡寺（檜葉町）、富岡駅周辺、福島第二原発、

福島第一原発（車窓見学）、浪江町、猪苗代町中ノ沢温泉宿泊

≪24日≫猪苗代湖畔「天鏡閣」、塔のへつり、大内宿、上越市内到着

【主催】浜通りの会（当会賛同人による実行委員会）

【参加者数】43名



シートで覆われているフレコンバックの山



福島第二原発の見える高台へ



天鏡閣にて



崩れた店や住宅やお墓が7年前の原発事故当時のままに
「この先 帰還困難区域につき 通行止め」

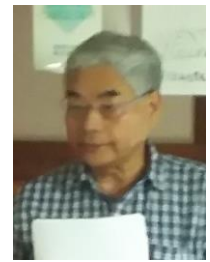
「福島は今」を見に行くツアーに参加して

高田・新井良一 記。

6/23～24（一泊二日）の日程で、「福島は今」を見に行くツアーに参加しました。総勢、40余名の大型バス満席の旅でした。中には、浪江町の出身者、知人が福島からの避難者、複数回の現地入りされた方と多彩です。折しも、「原発再稼働NO!」で闘われた県知事選・県議補選から、二週間後でした。

◆行程は、初日は高速北陸道～磐越道～国道6号沿いに広野～大熊・双葉・浪江町を巡回。

バス内では、佐藤三男氏（原発被害集団賠償訴訟原告団・事務局長）の現地説明が続きました。楡葉町では、宝鏡寺の早川篤雄住職（故郷を返せ・避難者訴訟原告団長）に、この間の「福島原発・反対運動」を聴きました。第二原発周辺（富岡町）ではバスを下車して高台からの施設見学もしました。参加者は、一様に「百聞は一見に如かず」の思いで、現地をつぶさに見つめました。



佐藤三男さん

◆当日の宿は、猪苗代町／中の沢温泉でした。

翌日は、猪苗代湖を望む「天鏡閣」～大内宿（旧下野街道宿場）～「塔のへつり」等の観光見学をして帰路に就きました。前日の生々しい現場から、ホッと一息の就ける景勝地でした。好天も味方した、実に凄みのある（貴重な体験が出来た）行程でした。



道路の両脇には、いたるところにバリケード



国道6号 福島第一原発近くを走行中のバス車内にて

◆初日の福島入りは、放射能・線量計での計測をしながらの行程でした。

楡葉町の宝鏡寺周辺は、 $0.28 \mu\text{Sv}$ （マイクロ・シーベルト）と上越地域の6～7倍にも。富岡～大野～双葉町周辺は、バス車内にも拘わらず、 $2.9 \mu\text{Sv}$ にも達しました。（屋外では、 $5 \mu\text{Sv}$ 超かと。実に上越と比べ100倍超にも達します）参加者一同、身をすくめる＜放射線量＞でした。

◆帰還困難地域は、一様に全ての出入り口が鉄製のバリケードで閉鎖され、家屋が当時のままで放置されて居ました。地震や津波の跡も、生々しいままです。

避難解除地域も帰還した人家は疎らで、人影や車両、動物（ペットほか）は殆ど見掛けません。当に、『ゴーストタウン』を目の当たりにしました。

◆原発立地の公的施設は、原発交付金の「お陰」で、其れは立派なものばかりです。

住民の帰還に備え、小中学校も統合新築の動きと聞かされました。しかし帰還予定家族は、余りに僅かで、中学校からは転校予定の家族も居るとの説明でした。全く、町の将来展望が描けぬ実情を目の当たりにしました。



避難指示解除されても人気のない街

◆農地は、除染土壌の仮置き場となり、至る処に黒いフレコンバッグが野積みされて居ます。

聞けば、損傷したバッグは更にシートで覆われ応急的な飛散防止がされて居るとも。中間貯蔵施設への搬出で空いた農地も見受けられましたが、果たして再農地化出来るものか？ 雑草だけが背伸びする<荒地>です。農家出身の我が身には、とても堪える風景でした。

◆宝鏡寺・早川住職のお話は、実に迫力のある説得力を感じました。

(1) 話の入りは、「この東北の一面で収まった事故」の言葉でした。(幸いにも局地的で)住職は、旧ソ連の「チェリノブイリ事故」が200~300kmに及んだ事との比較でした。

(2) 原発の誘致では、「安全」・「経済」・「エネルギー」の3神話が美しやかに説明されたとも。中でも「立地条件」(1960年代作成)は、①大都市圏から遠い、②低人口地域であること。

(3) 1992年にはチェリノブイリ事故を教訓に、「原発事故、次は日本」なる冊子を発刊。今回の福島原発事故で、「原発事故、次も日本」なる警告を強く指摘されました。

(4) 原発事故・避難計画では、「住民の移住計画」こそが必要と指摘されました。

避難解除地域への復帰、とりわけ若い世代の帰還が進まないことへの危惧/警告でした。

(5) 若い世代が帰還せず、老人達は次々と老い果てる。しかし、私は命ある限り、「原発反対」を訴え続ける覚悟との強い意志表明が、印象的でした。高齢を押し越しての闘いに感動しきり。



◆帰路のバスでは、参加者の感想が、活発に話し合われました。

一様に「原発は『稼働』させてはダメ」、「現地の実情がマスコミでは十分に報道されない」の他、「若い母親の何気ない言葉、『子供の甲状腺癌が年々増えて居るが自治体・大学病院はそれを認めない』との言葉に釘付けされた」、「身近な方にも、福島の実情を伝え、原発反対を訴えたい」、「新潟の原発事故・再検証委の動きに注目したい」、「花角県知事の言動に関心を」等、此れからの闘いに意欲が示されました。次回の「なくそテ原発！ 柏崎大集会」の案内も。

「百行は、一果に如かず」の言葉通り、様々な運動の展開で、最後は「再稼働断念」の回答を得なければなりません。改めて、これからも続く息の長い運動を覚悟しました。

我が人生、貴重な体験が叶った旅でした。

亦、これからの生き方も問われる旅でした。

以上。



福島第二原発を間近に



ツアー参加者一同

第1回「プラ製ストローと原発」

再生可能エネルギー（以下再エネ）と原発を比較するとき安全性と費用のことが多く議論される。私はこの両方の面で原発の再稼働を許すことができないし、費用の面においても最近再エネが優位に立っていることが証明されている。そのことは今後この連載で取り上げていきたい。

今回は、最近報道された小さなニュースを紹介して違う観点から原発再稼働を考えてみたい。「米スターバックス、プラスチック製ストローを全面禁止へ」このさりげない記事の中に、現在の世界が直面している問題（当然原発問題も含まれる）と我々の目指すべき方向性があると思う。プラ製ストローは全世界で1日1億本以上が消費され、そのほとんどが小さいがためリサイクルされずに捨てられるそうである。現代の大量消費・使い捨ての象徴である。私には原発とこの小さなストローが同じに見えてしまう。世界は動き出した。アメリカ・台湾・イギリスの名だたる企業がそして地方自治体が全面提供停止に踏み切ったのである。たとえ紙やパスタのストローがプラ製ストローの2倍・3倍の費用が掛かろうともそれでいくらかでも自然がそして生物が救われるのであるならば消費者は受け入れるであろうし、新たな革新もそこから生まれる。石坂浩二の言う「エネルギーミックス」は有り得ない。ものの考え方の基準が変わりつつあることを我々は感じ始めた。（北城町 高野）

活動報告

上映会&マルシェ・フリマ 大成功！

県知事選を前に原発について理解を深めていただくこと、5月20日（日）市民プラザで「日本と原発4年後」の無料上映会を行いました。当会の目標の一つに、「脱原発派とそれ以外の人の間の垣根を取り



払い」ことがあります。普段原発に興味のない人に来場していただくため、とびきり楽しいイベントにしようと、マルシェ・フリーマーケットも同時に開催。現金だけでなく、商品のカンパも頂き、今後の活動資金を得ることも出来ました。上越タイムスさんが告知記事を載せてくださったことも功を奏し、準備期間が短かったのにも関わらず、

楽しいイベントにしようと、マルシェ・フリーマーケットも同時に開催。現金だけでなく、商品のカンパも頂き、今後の活動資金を得ることも出来ました。上越タイムスさんが告知記事を載せてくださったことも功を奏し、準備期間が短かったのにも関わらず、

沢山の方にご来場いただき、大成功！(^^) スタッフも初参加多数♪打ち上げは高土町の空き家Baseさんで。（直江津 竹内）



私の思い



新潟がずっと素敵な場所であり続けるために 竹内直子（直江津）

経済的にゆとりがあるわけではない我が家。都会に住んでいれば、安全性を心配しながら輸入食材を購入し、通勤に毎日長時間を無駄にし、狭い家に住み、休日のレジャーではラッシュに巻き込まれ、ストレスフルな毎日をおくっていることだろう。

関西から引っ越してきて16年。家庭菜園の滋味深いお野菜をあちこちからまるで値打ちのないもののように頂き、渋滞のストレスもなく、すぐ近くのいい温泉で簡単に癒され、分不相応に広い家に住み、子供のころからの夢だった、海を眺めながらの暮らしを手に入れた。

ここに住んでいれば、おカネがなくてもまるでお金持ちのように生活していける。美しい海、魅力的な山、いい温泉、美味しい食材、そして慎み深く上品で温かい人たち。

私を魅了するこの土地が、放射能におかされることのないことを、私たちの愛する新潟が、いつまでも素敵なおとこであり続けてくれることを、狂おしく願い続けている。

プロフィール 去年11月、生涯16回目の引越で直江津駅前に。海と雪を愛する働く母。

♥つなげよう脱原発の輪 上越の会

代表：植木史将（090-4962-9633）

フェイスブック、ホームページ、随時更新しています！

カンパ募集中です

当会は皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお祈いします。

ゆうちょ銀行から…11260-13169471

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

ゆうちょ銀行以外から…ゆうちょ銀行・仔コメ（一

八）・普通預金・1316947

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

◇編集後記◇◆

▼脱原発活動に参加するようになり、仕事や地域やPTAでは出会えない素敵な人にいっぱい出会えた。ヘンな話だけど、その点ゲンパツ様に感謝かな(笑) (N・T)